事例紹介：ポストコロナの授業改善の試み

――e ラーニングシステムの活用に焦点を当てて――

教養教育センター助教　　滝波（たきなみ）　稚子（わかこ）

１．はじめに

コロナ禍で二年間ライブ形式のオンライン授業を行った。初めてのオンライン授業に悪戦苦闘したが、その経験から多くのことを学んだ。本年度は久しぶりに対面で授業を行い、コロナ禍のオンライン授業から得た学びを活かして授業改善を試みた。本稿はその授業改善の試みを紹介するものである。まずコロナ禍のオンライン授業からどのようなことを学んだか述べる。次にその学びを活かして、どのように授業を改善しようとしたか、そしてどのように授業外の学習を充実させようとしたか述べる。e ラーニングシステムの活用に焦点を当て、これらの試みの成果と今後の課題を示す。

２．コロナ禍のオンライン授業から得た学び

コロナ禍のオンライン授業から学んだことは主に二つある。一つは対面授業とオンライン授業の利点で、もう一つは鳥取大学の e ラーニングシステムである manaba の有用性である。

対面授業の利点として、授業中に受講生が教員の指示や教科書の課題が理解できないときに周りのクラスメイトに尋ねられることが挙げられる。これは特に英語が苦手な受講生が授業内容を理解するうえで大きな助けとなる（[1]）。また、ペアやグループでの活動がうまくいくことも対面授業の良い点である。教員だけでなく受講生もこのように感じており（[1], [2]）、その理由は教員がクラス全体の活動の進捗状況を把握し、適宜指導や時間調整をすることができるからだと考えられる。

オンライン授業の利点は、受講生がわからないことをすぐにオンライン検索できることである。また、オンデマンド型のオンライン授業には、自分のペースで動画を繰り返し見ることができるという良い点があり、これは受講生が授業内容をよりよく理解したり復習したりするうえで役に立つ（[1]）。

コロナ禍のオンライン授業で初めて manaba を使った。manaba を使うと、授業の出欠席に関わらず履修登録をした受講生全員に授業の連絡や資料共有ができる。そして、毎回プリントを人数分印刷する必要がなくなる。また、授業外の時間を使って授業内容の理解度を確認するアンケートを実施・回収できる。

本年度はこれらの学びを活かして授業改善を試みた。具体的には、対面授業とオンライン授業の利点を組み合わせ、よりわかりやすい授業をするよう努めた。さらに manaba の活

用法を模索した。

３．わかりやすさに焦点をあてた授業改善の試み

授業を理解できることは受講生の授業に対する満足度、授業に取り組む姿勢、学習意欲の維持または向上に大きな影響を与える。本年度はよりわかりやすい授業をするために対面授業とオンライン授業の利点を組み合わせた。具体的には、ペアで理解を確認する機会を増やし、受講生の質問への回答を manaba 上で共有した。これらの授業改善の試みに対して受講生からは肯定的な反応があった。

コロナ以前やコロナ禍でも、授業中にペアで理解を確認する機会を設けていた。例えば、初回のオリエンテーションでコース概要や評価方法、テストについて説明するときは、ペアで日本語で理解を確認させた。また、授業で教科書の演習問題の答え合わせをするときは、クラス全体でする前にペアで確認させた。本年度はそれに加えて、授業でペアワークをしたり教科書の課題に取り組む前に、教員の指示を理解しているか、ペアで確認する時間を与えた。これにより受講生全員が同じタイミングで活動を開始でき、授業がスムーズに進んだ。さらに、教科書の演習問題の答え合わせをするときはペアで答えを確認するだけでなく、その根拠についても話し合うよう指示した。ペアで答えの根拠を確認することにより、受講生は一人で取り組んだときにはわからなかったことが理解できたようだった。

授業で理解できなかったことや疑問に思ったことについては授業終了時にアンケートを実施し質問を受け付けている。コロナ以前はアンケート用紙を配布し、質問への回答を書き込んだ用紙を受講生に返却していた。しかしコロナ禍のライブ形式のオンライン授業ではそれができず、manaba 上でアンケートを実施し、質問への回答を共有した。すると、質問した受講生だけでなく他の受講生からも授業内容の理解や復習に役立ったという肯定的な反応があったため、ポストコロナの授業でも回答や解説をより詳しくして続けることにした。

これらの授業改善の試みに対して受講生からどのような反応があったか、以下にその一部を紹介する。

<u>ペアによる理解の確認について</u>

- 先生の説明の後に理解できているかどうかをペアの人と確認する時間を毎回与えてくれたため、自分が理解できていないところがよく分かりとても助かった。英語はあまり好きじゃないけど、割と楽しく授業ができたので良かった。
- 自分のレベルに合っている授業だったので、理解しやすかったし授業に取り組みやすかったです。今までは先生が何を言っているかわからないまま授業が進んでいくことが多かったので、ペアで確認タイムがあるのはとても助かりました。
- コミュニケーション英語 B の授業では先生から言われたことがあまり理解できないまま授業が進んでいくことがあるけど、先生の授業では分かりやすく説明してくださり、それに加え隣の席の人と確認する時間があり常に理解しながら授業に取り組むことができたので授業の進行方法にとても助かりました。

授業内容理解確認アンケートへの回答共有について

- 私は英語が苦手で分からないことが多くあったのですが、そんな時に manaba で質問に答えてもらえて、講義内で疑問に思ったことを消化することが出来ました。
- 先生は私たち生徒の発言に優しく耳を傾けてくださるので、とても発言しやすかったです。また、授業アンケートの答えも丁寧に答えてくださってとても参考になっていました。

これらの回答から授業内容を理解できることが授業に前向きに取り組む姿勢につながったことがわかる。

４．manaba 活用法の模索

コロナ以前とポストコロナの授業で一番大きな変化は manaba の活用である。本年度は授業内の学習だけでなく授業外の学習もより充実させるために manaba の活用法を模索した。特に受講生の継続的な学習を促し、語彙力を強化し、ライティング力を向上させることを目指した。これらの試みには成果もあったが課題も残った。

語彙力強化のために manaba を使って受講生がターゲット語彙に出会う回数を増やした。コロナ以前やコロナ禍でも宿題として教科書の語彙に関する問題を解かせていたが、答え合わせは授業で行っていた。本年度は事前に manaba 上で答え合わせもさせておくことで、授業中にその時間を単語の発音の確認などの活動に使うことができた。また、昨年度後期のオンライン授業で授業開始時にウォームアップ活動として manaba を使い単語テストをしてみたところ、受講生の英単語学習に対するモチベーションの維持、授業外学習の促進、そして受講生の自己肯定感の向上に役立ったことがわかり、本年度も続けることにした。本年度は前期の初回の授業で教科書に載っている全てのターゲット語彙を含むリストを配布し、その全ての単語や熟語をテスト範囲として、前期の始めから後期の終わりまで毎回の授業で単語テストを実施した。そうすることで、その日の授業で学習する単元に出てくる単語や熟語以外のターゲット語彙も定期的に学習することを促した。単語テストに関して受講生からは肯定的な反応があった。以下にその一部を紹介する。

- 単語テストでは完璧に覚えていると思っていた単語を書くことが出来なくて悔しかった。もう一度完璧に覚えておきたいと思った。
- 単語テストで、1 週目の時よりも、単語を覚えていることが実感できたので良かった。今後も少しずつ単語を覚えていきたい。
- 今回の単語テストで、初めに受けた時よりも手ごたえを感じて、単語は何回も復習することで覚えることができると分かった。しかし、ど忘れした単語もあるため、抜けがないようにしたい。

これらの回答から学習効果を実感できることが学習意欲の維持または向上につながったこ

とがわかる。また、それまでに学習効果を実感できていたため、期待通りの結果が出ず悔しい思いをしてもその後の学習に対する意欲を維持できたこともわかる。

ライティング力の向上のために受講生に継続的に英語で書くことを課した。昨年度のオンライン授業で manaba を使ってライティング課題を出してみたが、教員が選んだトピックには受講生の興味や知識の有無により書きやすいものと書きにくいものがあるようだった。よって本年度は教員ではなく受講生がトピックを選んだ。そうすることで、ライティング課題が少し取り組みやすくなり、自分の興味のあるトピックや専門分野に関連したトピックを選んだときは、それについて書くのは楽しかったようだった。それに加えて、本年度はターゲット語彙の定着のためにライティング課題でターゲット語彙を使用するよう促した。作文中で正しく使用すれば加点というインセンティブを与えたが強制ではなかったため、作文中でターゲット語彙をどのくらい使用するかは受講生により、またトピックにより様々であった。ライティング課題に関して今後の課題として残ったことは、受講生の DeepL を含む翻訳ツールの使用への対応である。翻訳ツールはこれからどんどん発達し、ますます精度が上がっていくことが予想されるため、使用を禁止するのではなく、効果的な使い方を学ばせる方が良いだろう。しかし、翻訳ツールを効果的に使うためにはある程度英語を理解し、英語で発信する力が必要である。その発信力をつけるためのライティング練習には翻訳ツールの使用は望ましくないが、授業時間外に課題として課すと制限するのが難しい。今後は受講生のライティング力の向上のために、授業外で翻訳ツールを使わずにライティング課題に取り組ませる良い方法を見つけなければならない。

５．おわりに

本稿ではコロナ禍のオンライン授業から得た知識や経験を活かしたポストコロナの授業改善の試みについて述べた。特に manaba の活用に焦点を当て、成果と課題を紹介した。今後も、受講生が英語や教科書の本文の内容についての理解を深める場として、受講生同士の学び合いの場として、受講生が英語を使う場として対面授業を活用し、受講生が英語や教科書の本文の内容についての知識を広げる場として、受講生の授業外学習を促すツールとして manaba を活用していきたい。

参考文献

[1] 小林昌博，滝波稚子．2022．英語の授業形態と理解度・指導法に関するアンケート調査の結果報告―コロナ禍とポストコロナにおける授業形態の検討―.「鳥取大学教育支援・国際交流推進機構教養教育センター紀要」18

[2] Takinami, W., M. Kobayashi, and S. Leane. 2021. General Education English Live Online Lessons: Report. *Bulletin of Tottori University Education Centre*. 17. pp.65-75.